

広島県歯科医師会主導の歯科医を対象とした肝炎対策普及活動体制の構築

研究分担者：加治屋 幹人 広島大学病院 口腔検査センター

研究要旨：肝臓専門医によるウイルス性肝炎の治療技術が向上した現在、潜在的なウイルス性肝炎陽性者の肝臓専門医受検・受診機会を増加させることが次の課題といえる。その方策の一つとして、他の医療機関の肝臓非専門医からの患者紹介率を向上させることが考えられる。特に、国民の84.4%に「かかりつけ歯科」があるという事実から、歯科医師は肝臓専門医への患者紹介率向上に有望な対象といえる。

これまでに、名古屋市立大学病院の井上らが、歯科医師への肝炎啓発活動を行うことで、歯科医師の肝炎患者紹介についてのモチベーションが向上する可能性を示していた。さらに、その肝炎啓発活動は、肝臓専門医ではなく歯科医師会が主導することが有効となることが示唆された。そこで本研究では、愛知県歯科医師会を中心とした活動成果を全国水平展開可能か検証するために、広島県での有効性検証を行う。

広島県歯科医師会学術部に肝炎対策活動についての講習会を実施した後に、各地区歯科医師会主導の肝炎対策講習会を計画した。R4年度までには、広島県歯科医師会主導のもと、安佐・山県郡歯科医師会、竹原豊田歯科医師会、呉市歯科医師会、大竹市歯科医師会での講習会を実施した。講習会開催前に、肝炎に関する事前アンケート調査を行い、講習会後にも肝炎患者紹介に関するアンケート調査を実施することで、肝炎対策講習会の効果を検証した。

事前アンケート調査の結果から（回答率42%（192/454施設））、約79%（165/192施設）が、自院に肝炎患者が通院していることを把握しながらも、肝臓専門医へ紹介することは少なかった（約10%（20/192））。一方、肝炎対策講習会直後のアンケート調査の結果から、講習会を受講した歯科医師は、肝臓専門医へ患者を紹介する意識が高まることが示された。

今後、広島県全体の各地区歯科医師会への講習会を完遂した後に、肝炎に関するアンケート調査を行い、歯科医師会主導の肝炎対策講習会が実際に歯科医師の肝炎患者紹介モチベーションの向上につながるかを明らかにする予定ある。また、講習会のみならず、肝炎コーディネーター養成活動や啓発資材配布等を加え、より効果的な歯科医師向け肝炎対策活動の構築を目指す。

A. 研究目的

核酸合成阻害薬を用いたより簡便かつ効果的なウイルス性肝炎治療技術が確立され、肝臓専門医による適切な検査・治療が可能となっている。したがって、これからのウイルス性肝炎患者に対する医療は、肝臓専門医へ潜在的なウイルス性肝炎陽性者を集積させることが重要となる。

ウイルス性肝炎患者の肝臓専門医への受検率・受診率向上には、他医療機関の非肝臓専門医からの紹介が有効と考えられる。その

中でも特に、国民の過半数は「かかりつけ歯科医院」があるということから、歯科の肝炎対策活動に対するモチベーションを高め、肝臓専門医との連携体制が確立されれば、歯科からのウイルス性肝炎患者紹介率が向上し、効果的な肝炎対策医療となりうる。

その歯科医師の8割以上は、大学病院などには属さず、自身が歯科診療所を開業して歯科治療を行っている。すなわち、医療技術等の情報は、学会などではなく、歯科医師会から提供されているケースが多い。この歯科の

特性に着目し、研究分担者である名古屋市立大学病院(名市大)の井上らは、愛知県歯科医師会にはたらきかけ、歯科医師会主導の肝炎対策講習会や啓発資料の配布などを実施した。その結果、歯科医師会による肝炎対策講習会は、歯科医師による肝炎患者紹介率を向上させる可能性を見出した(井上貴子ら、肝臓、2021)。

この愛知県歯科医師会の成果を全国水平展開が可能となれば、より効果的な歯科医師によるウイルス性肝炎患者受検率・受診率の向上につながる。そこで本研究では、井上らの先行研究を基に、広島県歯科医師会主導の肝炎対策講習会を実施し、その有効性を検証することとした。

本報告書では、広島県歯科医師会主導の講習会実施前・実施後のアンケート調査結果を示し、その有効性を示すとともに、さらに効果的な歯科医師向け肝炎対策活動の方策を考察する。

B. 研究方法

1) 広島県歯科医師会学術部を対象とした「歯科医師主導肝炎対策講習会」の意義についての研修会

2021年7月～9月にかけて、愛知県での歯科医師による肝炎対策普及活動の内容とその成果について、広島県歯科医師会学術部(11名)を対象に、愛知県歯科医師会・名市大井上らと共同で情報提供を行った。

2) 広島県各地区歯科医師会での肝炎対策講習会実施前アンケート調査

アンケート調査の対象は、安佐・山県郡歯科医師会、竹原豊田歯科医師会、呉市歯科医師会、大竹市歯科医師会に所属する歯科医院454施設とした。調査期間は、各地区講習会開催の2ヵ月前からの1ヵ月間(2021年12月～2023年1月)とした。

アンケートの配布ルートは、広島県歯科医師会学術部から各歯科医院へ、アンケートと肝炎対策講習会の目的を明記した添え状とアンケート用紙を郵送した。さらに、添え状

には、web 回答も可能にするために、web アンケート用 QR コードも記載した。回答は、広島県歯科医師会学術部に返送もしくはwebでの返信とした。添え状(図1)とアンケート内容(図2)に示す。

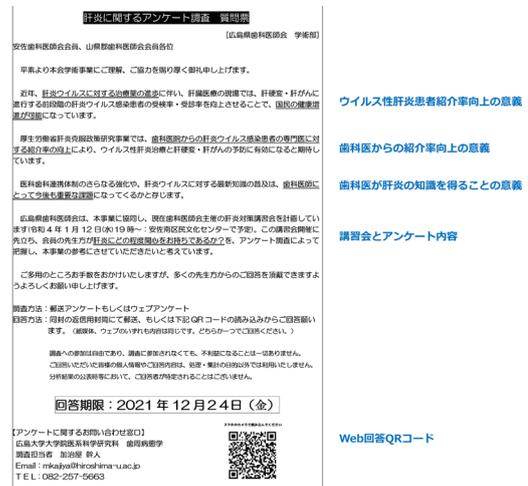


図 1. アンケート添え状
肝炎対策講習会の意義とアンケート内容
3) 広島県各地区歯科医師会での肝炎対策講習会実施と事後アンケート調査

各地区歯科医師会で、研究代表者は永および分担者井上と共同で、肝炎対策講習会を実施した。講習内容は、肝炎医療の現状と患者受検率・受診率の意義、肝炎に関する適切な情報を提示し、歯科医師がどのように肝炎対策活動に関わるかについて示した。さらに、講習会を受講した歯科医師にアンケート用紙を配布し、その場で回答していただいた。



図 2-a. アンケート 1 頁目

Q11. ウイルス性肝炎患者さんを紹介しやすくするために有効と考えられる施策を複数選択してください。(※: 知照で対応する研修施設訪問、専門医連携の構築、患者さん訪問団体の活動)

Q12. C型肝炎の治療が進歩し、内服薬でほぼ完治が期待されることをご存知ですか？
 知っています 知りません その他()

Q13. B型肝炎の治療が進歩し、内服薬で肝臓炎・肝硬変の進行を抑制できることをご存知ですか？
 知っています 知りません その他()

Q14. C型肝炎上剤(ワクオン)を管理していますか？
 管理している(処方あり) 管理していない(処方なし) 管理している(処方あり) 管理していない(処方なし)

Q15. スタックは1日1回ワクオンを接種していただけますが、接種するものを全てお預せください。
 全量が接種し、残体がある 全量が接種しているが、残体量が上らない 接種していない 全量が接種していない 接種できていない 接種できていない

Q16. 肝炎医療コーディネーター認定資格についてご存知ですか？
 知っている 知らない

Q17. 肝炎医療コーディネーター認定講習会に参加し、資格取得を希望しますか？
 コーディネーターとして認定済み 希望する どちらでもない 興味がない

Q18. スタック(産科衛生士・技士・助手・受診者の肝炎医療コーディネーター資格)取得を希望しますか？
 コーディネーターとして認定済み 希望する どちらでもない 興味がない

Q19. 肝炎以外の医療連携に興味がありますか。(※: 実施していますか？)
 興味がない 糖尿病 がん 呼吸器科 循環器科 消化器科 泌尿器科 皮膚科 産科 その他()

Q20. 診療情報連携ツールを導入していますか？
 導入している 導入していない

Q21. 診療情報連携ツールを導入していますか？
 導入している 導入していない

ご協力いただき誠にありがとうございました。(2/2)

図 2-b. アンケート 2 頁目

歯科医の専門性・歯科医院規模・肝炎患者への対応(紹介有無)・肝炎についての知識・肝炎コーディネーター/講習会への興味・医科歯科連携の実施有無など

C. 研究結果

1) 広島県歯科医師会学術部を対象とした「歯科医師主導肝炎対策講習会」の意義についての研修会

広島県歯科医師会学術部に、愛知県歯科医師会の肝炎対策普及活動に関する研修会を行ったところ、広島県内の群市歯科医師会での肝炎対策講習会を開始することとなった。特に、本研究の意義に賛同が得られ、全ての講習会実施前に、事前アンケート調査を行うことが決定した。

特に、R3 年度に安佐・山県郡歯科医師会、R4 年度に竹原豊田・呉市・大竹市・広島市歯科医師会での講習会開催が決まり(広島市は本報告書作成後の 2023 年 3 月 9 日に実施)、R5 年度以降も未実施地区での講習会開催を計画している。

2) 広島県各地区歯科医師会での肝炎対策講習会実施前アンケート調査

事前アンケート送付数 454 施設、回答数 192 施設で、回答率は 42%であった。アンケート調査の結果から、対象とした地区において、肝炎対策講習会の未受講者は約 93% (13/192)であった。以下に、主な質問と回答を示す。

「問診または初診時の問診表で、肝疾患(肝炎)の既往について質問しますか?」の質問に対して、94%(180/192)の施設が問診していると回答した。さらに、「ウイルス性肝炎患者さんは何名程度、貴院に通院していますか?」の質問に対して、191 施設が回答した。数名 49.5%(96/191)、10 名程度 14.0%(27/191)、10 名以上 14.5%(28/191)の合わせて 78.0%の歯科医院が肝炎患者の通院を把握していることがわかった(図 3)。一方、「ウイルス性肝炎の患者さんを、紹介していますか?」の質問には 190 施設が回答した。肝臓専門医に紹介 8.4%(16/190)、内科医に紹介 28.4%(54/190)すると回答を得た。一方、紹介しませんという回答は 55.2%(105/190)となった(図 4)。これらの結果から、広島県の歯科医師は、自院に肝炎患者が通院していることを把握しているにも関わらず、肝臓専門医への紹介率は低いことが示された。

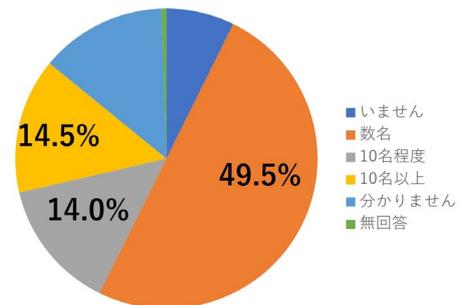


図 3 肝炎患者が何名通院しているか

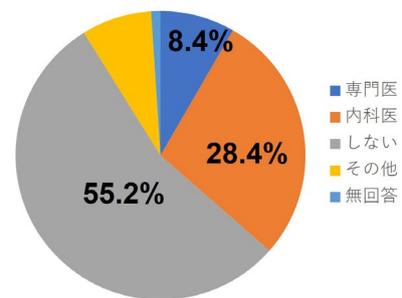


図 4. 肝炎患者を肝臓専門医に紹介しているか

さらに、医科歯科連携の実施有無を把握するために、「診療情報連携共有料を算定していますか?」というアンケートを行ったところ

ろ、算定している 46.9%(90/192)となり、算定していないが 51.0%(98/192)となった。このことから、肝炎医療との連携は弱いものの、半数近くの歯科医院がその他の疾患に関する医科歯科連携の実績があることが示された(図 5)。

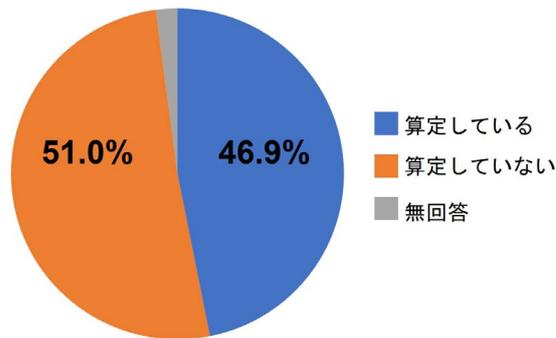


図 5. 診療情報連携共有料算定(医科歯科連携体制)の有無

3) 広島県各地区歯科医師会での肝炎対策講習会実施と事後アンケート調査

各地区歯科医師会主導で肝炎医療の実態や、歯科の役割、もしくはワクチンや治療薬についての講習を実施直後に、受講した歯科医師(95名)からアンケートの回答を得た。

「B型肝炎について、今日の講演内容をご存知でしたか?」という質問に対して、少ししか知らなかった 69%(66/95)、全然知らなかった 12%(11/95)と回答を得た(図 6 左)。また「C型肝炎について、今日の講演内容をご存知でしたか?」という質問に対して、少ししか知らなかった 74%(70/95)、全然知らなかった 12%(12/95)と回答を得た(図 6 右)。このことは、歯科医師にとって肝炎ウイルスに関する情報が不足していることを示唆した。

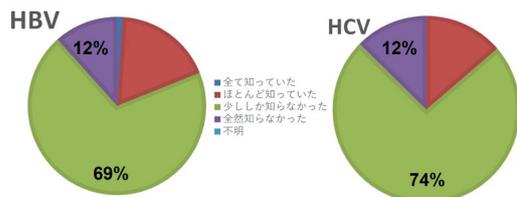


図 6. HBV/HCV について知っているか?

「今まで、HBs 抗原陽性症例について、どのように対処しておられましたか?」と「これから、HBs 抗原陽性症例について、どのように対処しようとおもわれますか?」という質問に対して、今まで大半の歯科医師は専門医に積極的に紹介していなかったのに対し 88%(84/95; 図 7 左)、講習会受講後は全例専門医に紹介しようと思う 15%(14/95)、なるべく専門医に紹介しようと思う 82%(78/95)となった(図 7 右)。

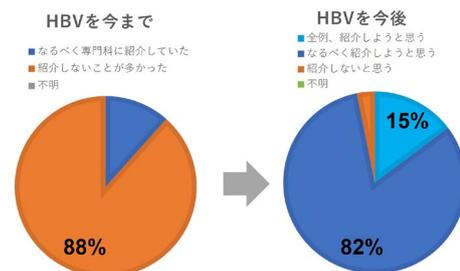


図 7. 講習会受講前後での HBV 患者紹介意識

同様に、「今まで、HBs 抗原陽性症例について、どのように対処しておられましたか?」と「これから、HBs 抗原陽性症例について、どのように対処しようとおもわれますか?」という質問に対して、今まで専門医に紹介しないことが多かったのに対し 82%(78/95; 図 8 左)、講習会受講後は全例専門医に紹介しようと思う 12%(11/95)、なるべく専門医に紹介しようと思う 86%(82/95)となった(図 8 右)。

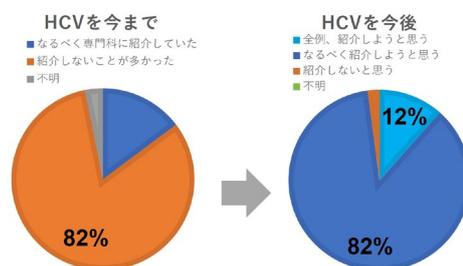


図 8. 講習会受講前後での HCV 患者紹介意識

以上の結果から、肝炎対策講習会を実施することで、歯科医師からのウイルス性肝炎患者の紹介率向上につながる可能性が示唆された。

D. 考察

名市大井上らの先行研究では、歯科医師会主導で、肝炎に関する知識提供を行う肝炎対策講習会が、歯科医師の肝炎に対する知識・患者紹介率を向上させた(井上貴子ら、肝臓、2021)。本研究は、この愛知県での成果に類似して、広島県歯科医師会が開催する肝炎対策講習会が、歯科医師の肝炎患者紹介のモチベーションを高めることが示された。すなわち、この歯科医師会主導肝炎対策講習会は歯科の肝炎患者に対する意識を高めるための有効な方法として、全国水平展開することが出来る可能性を示唆した。

肝炎講習会を実施することが、肝炎患者紹介のモチベーション向上につながった理由について、肝炎医療の適切な知識を提供できたことが挙げられる。本研究結果から、広島県の歯科医師は、自院に通院する肝炎患者数を問診によってよく把握しているものの、肝臓専門医へ紹介するという考え方は希薄であった。しかし、図 6 に示されるように、HBV/HCVについての知識は不十分な状態であった。肝炎対策講習会に参加し、ウイルス性肝炎は肝臓専門医によって確実に治療可能であることを知った歯科医師は、肝臓専門医に紹介する合理性を容易に理解したものと考えられる。

肝炎講習会直後のアンケート調査の結果、歯科医師の肝炎患者紹介に対するモチベーションは向上したように見える。しかし、講習会直後のみで、経時的にそのモチベーションが下がることなど、一時的な効果しか得られていない可能性が考えられる。そこで、広島県全地区歯科医師会での講習会を完遂後、あらためて同じ項目の事前アンケート調査をすることで、真に講習会が有効であったかが評価可能といえる。

歯科医から肝臓専門医に対する紹介率向上のためには、講習会による知識の提供のみならず、専門医への簡便な紹介システム構築や、啓発資材の配

布、肝炎コーディネーター養成等が考えられる。本研究では、本報告書に示すデータ以外にも、「資材が欲しい」「紹介状のシステムが欲しい」等個別の意見も得られている。そこで、今回の調査結果と、先行研究の成果を分析し、講習会と併用することでより有効な歯科医師向け肝炎対策活動を実施していく必要がある。

E. 結論

広島県の歯科医院の多くは、肝炎患者の通院状況を把握しているものの、肝炎に関する知識に乏しく、肝臓専門医への紹介はあまり行われていなかった。

歯科医師会主導の肝炎対策講習会で、適切な肝炎に関する知識を得た歯科医師は、肝炎対策医療に連携する意識が高まる可能性が示された。

更に、啓発資材などのコーディネーター養成など別のアプローチを加えることで、歯科医師からの肝炎患者紹介率の向上が可能になると期待できる。

今後、講習会を着実に実施しながら、事前・事後アンケート調査によってその有効性を確実に示すとともに、より効果的なものにするための因子を探索していくことで、歯科医師からの肝炎患者紹介が実現すると言える。

F. 政策提言および実務活動

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

- 井上貴子、加治屋幹人、加藤正美、本山智得、山崎健次、内堀典保、是永匡紹 歯科医師の B 型肝炎ワクチン接種状況に診られる問題点 肝臓 2023.

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 加治屋幹人:令和3年度ウイルス性肝炎講習会 ウイルス性肝炎の新たな展開と医科歯科連携に向けた取り組み
2022年3月30日
主催：安佐歯科医師会・
山県郡歯科医師会
2. 加治屋幹人:令和4年度ウイルス性肝炎講習会 ウイルス性肝炎の新たな展開と医科歯科連携に向けた取り組み 2022年11月24日 主催：竹原豊田歯科医師会
3. 加治屋幹人:令和4年度呉市歯科医師会医療管理部講習会 ウイルス性肝炎の新たな展開と医科歯科連携に向けた取り組み
2022年12月22日
主催：呉市歯科医師会
4. 加治屋幹人:令和4年度大竹市ウイルス性肝炎講習会 ウイルス性肝炎の新たな展開と医科歯科連携に向けた取り組み
2023年1月20日
主催：安佐歯科医師会・
山県郡歯科医師会

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし